

MITSUBISHI

販売店・工事店さま用

三菱ダクト用換気送風機 (カウンターアローファン) 換気・冷暖房システム給気専用

形名

V-150CP-D-KG (大風量・断熱材付寒冷地仕様)

取付工事説明書

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

正しく安全に取付けて、お使いいただくためにこの説明書を必ずお読みください。
なお「安全のために必ず守ること」は取付工事上、および使用上大切なことですので必ず事前にご確認ください。

- 取付工事、壁穴工事、電気工事はお買上げの販売店または専門の工事店さまが実施してください。
- この製品は三菱高気密・高断熱住宅用換気・冷暖房システム専用です。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径のグラスウールダクトをご用意ください。

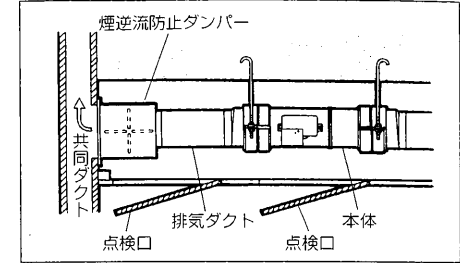
1.安全のために必ず守ること

- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	 注意	誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない 爆発・引火の原因。 ●内釜式風呂を据付けた浴室には取付けない 排気ガスが逆流し、一酸化炭素中毒をおこす原因。 	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には取付けない 火災の原因。
 水かけ禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因。 	 浴室での使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●浴室内に壁スイッチを取付けない 感電の原因。
 分解禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。 		<ul style="list-style-type: none"> ●本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因。
 指示に従う	<ul style="list-style-type: none"> ●交流100Vを使用する 火災・感電の原因。 ●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取付ける 漏電した場合発火の原因。 	 指示に従う	<ul style="list-style-type: none"> ●部品の取付けは確実に 落下によりけがの原因。 ●取付の際は必ず手袋を着用する けがの原因。
 アース線接続	<ul style="list-style-type: none"> ●アースを確実に取付ける アースを取付けないと故障や漏電のときに感電の原因。 		<ul style="list-style-type: none"> ●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。

規制

- 共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施行令により防火の役割りを果たすものを使用するよう義務づけられていますので、2mの鋼板立上がりダクトを取付けるか、システム部材の煙逆流防止ダンパーを取付けて点検口を必ず設けてください。
- ジャバラの使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。



お願い

次のような場所に取付けない。

取付場所

- 高温（低温）になる場所
 - 高温（50℃以上）になるところに取付けない。
モーター焼損の原因になります。
 - 10℃以下の冷蔵庫など氷結する恐れのある場所に取付けない。
- 特殊環境
 - 腐食性ガスを発生する場所や化学薬品を扱う場所。
 - 爆発性の粉じんやガスの発生する場所または、発生するおそれのある場所。

- 常時振動したり、振動しやすい場所
 - 振動しない強固な場所に取付ける。
落下や製品の故障の原因になります。

- 鶏舎・豚舎などのほこりの多い場所。
- 油煙の多い場所。

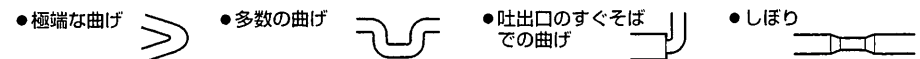
取付け

- 送風機を確実に取付ける。
取付けが不十分だと振動・異常音の原因になります。
- 配線工事は専門の工事店へご依頼ください。
- メンテナンスをされる場合
 - 断熱材を取外した部分は、もう一度断熱材を貼るなど十分な断熱処理を行ってください。
 - 断熱材は市販品をご使用ください。
(使用断熱材：連立発泡タイプ (UN-2)、熱伝導率 0.0372W/mk以下、厚さ20mm以上)

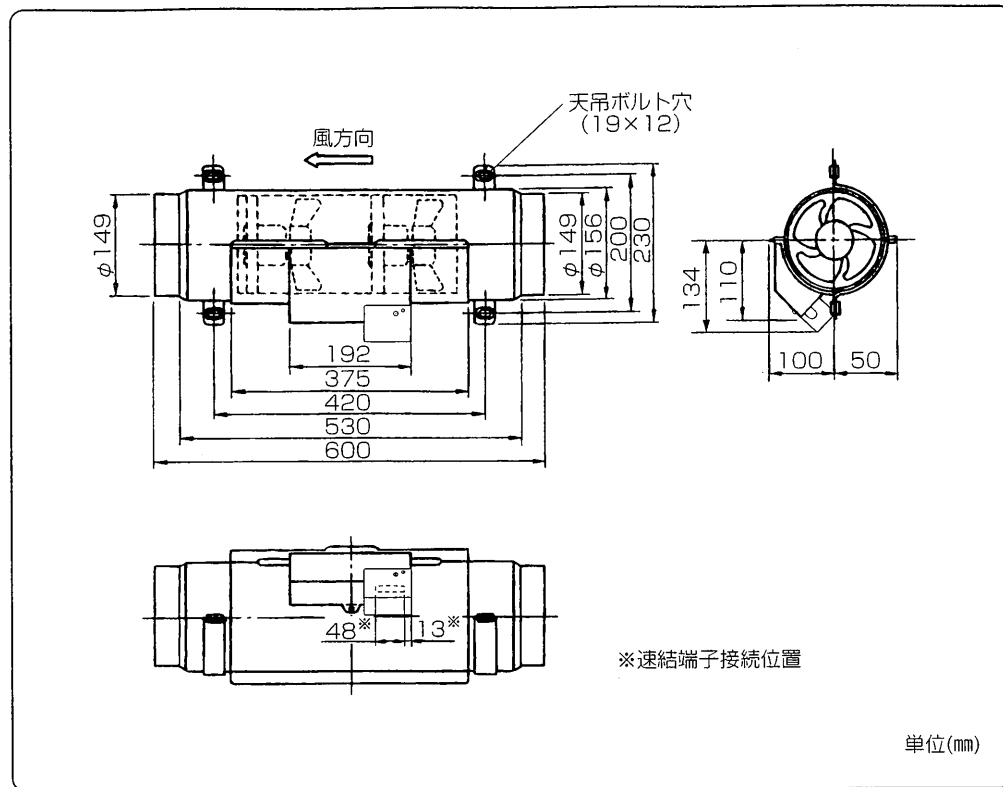
- 一度取外した断熱材の再使用はおやめください。
- メンテナンスが行えるように送風機を取付けた天井には保守点検口 (口450) を必ず設けてください。
点検口が設置されていない場合、無償保障期間内であっても製品修理に必要となる天井その他の取り壊しおよび修理費用は工事店様負担になります。

天井・ダクト工事

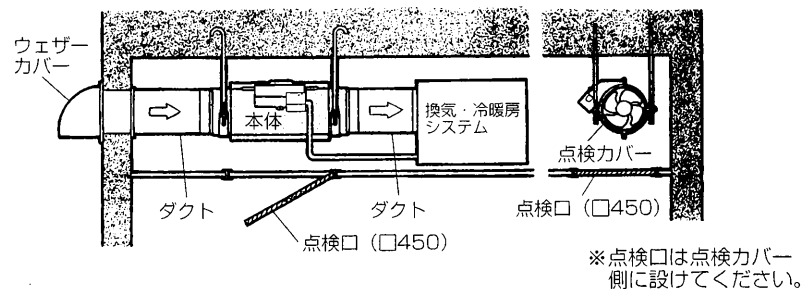
- 天井板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつけてください。
- 排気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのベントキャップ(システム部材)または、雨水などの浸入を防ぐための深形フード(システム部材)などを、外風が強いところでは耐外風フードなどを取付けてください。
- 効果的な換気を行うために吸気口を設けてください。
- 次のようなダクト工事はしないてください。(風量低下や異常音発生の原因になります)



2.外形寸法図



3.取付例



4.取付方法

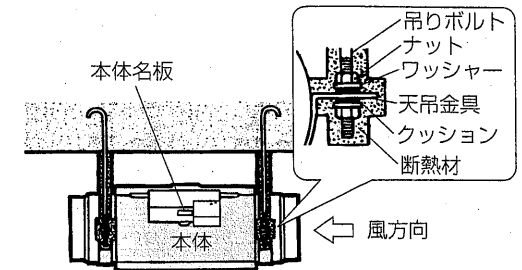
■この製品の取付けには、市販の断熱材が必要です。下記の断熱材をご使用ください。

(使用断熱材：連立発泡タイプ (UN-2)、熱伝導率0.0372W/mk以下、厚さ20mm以上)

1. 取付位置・壁排気穴位置・吸込口位置をきめます。
2. 外形寸法図を参照し、強固な取付場所に市販の吊りボルト (M8またはM10) を埋込みます。
3. 風方向を確認し、本体を取付けます。

1 本体の取付け

- 1 本体が水平になるよう天吊金具を吊りボルトに通し、市販のワッシャー・ナット (M8またはM10) にて確実に固定する。
- 2 天吊金具・吊りボルトに市販の断熱材を貼付けて十分な断熱処理を行う。

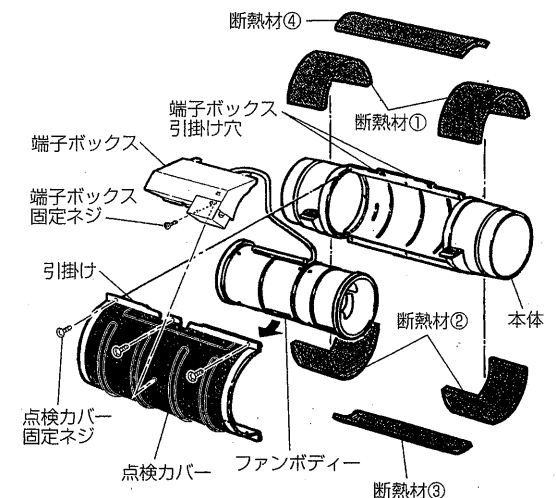


ご注意

- 上下方向・風方向を確認して取付けてください。(本体名板に表示してあります。)
- 十分な断熱処理を行いませんと結露が発生します。

点検カバー側から見た風方向を変更する場合

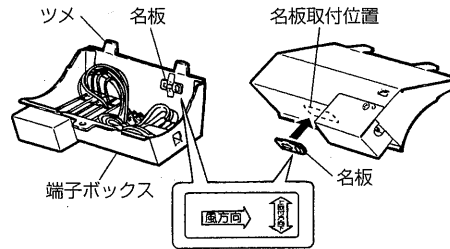
- 1 端子ボックス固定ネジを外し、端子ボックスを点検カバーより右図のように取外す。
- 2 断熱材①②③④を完全に取外す。
- 3 点検カバー固定ネジ (6本) を外し点検カバーを取外す。(上部引掛けあり)
- 4 ファンボディの下側の手掛けに手を掛け手前に引出しファンボディを取外す。
●このとき端子ボックスとファンボディは接続されたままです。



- 5 ファンボディを軸方向に180°反転させ、取外した逆の順序で取付ける。
●一度外した断熱材の再利用はおやめください。断熱材は市販品を購入し断熱材をはがした部分に貼り直す。
(使用断熱材：連立発泡タイプ (UN-2)、熱伝導率0.0372W/mk以下、厚さ3mm以上)

4. 取付方法 つづき

6 端子ボックス内側に風方向を表示する名板がテープ止めされていますので、それをはがして本体名板（端子ボックス外側）の風方向表示部分に上から貼付ける。



7 点検カバーを元通り取付ける。

8 端子ボックスのツメを本体の端子ボックス引掛け穴にはめ込み端子ボックス固定ネジで取付ける。

ご注意

- 断熱材をはがした部分にもう一度市販の断熱材を貼るなど十分な断熱処理を施してください。再度断熱処理を行いませんと結露が発生します。
- 一度取外した断熱材の再使用はおやめください。

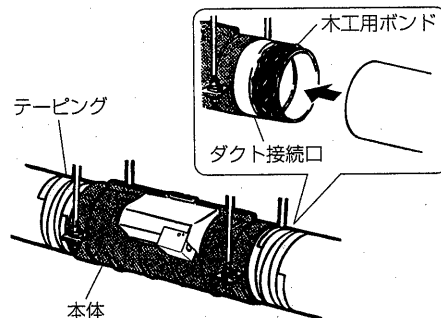
2. ダクト工事

1 市販の木工ボンドをダクト接続口に風漏れのないようにしっかりとぬる。

2 ダクト接続口にダクトをしっかり差込み外周を市販のアルミテープ等でテーピングする。

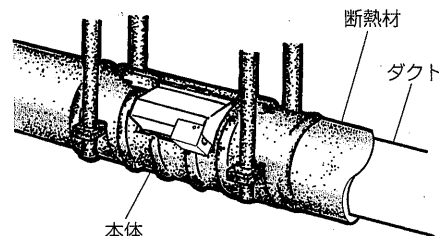
3 テーピングの上からさらに断熱材を巻き付けるなど十分な断熱処理を施す。

4 ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊す。



ご注意

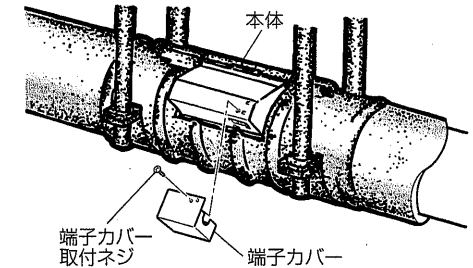
- 十分な断熱処理を行いませんと結露が発生します。
- 断熱材・アルミテープ等は、市販品をご使用ください。



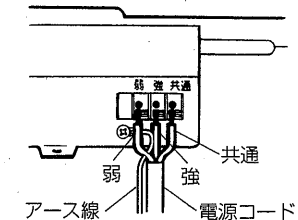
3. 電気工事

- 電源の接続・配線工事は、換気・冷暖房システム本体付属の取付説明書を参照ください。
- 電源の接続・配線工事などは、必ず専門の電気工事店へご依頼ください。
- 電源は、単相交流100Vをご使用ください。200V電源をご使用になりますとモーター焼損・火災の原因となります。
- 専門の電気工事店が、電気設備技術基準に基づいて行う。

1 端子カバー取付ネジ（1本）をはずし、端子カバーをはずす。



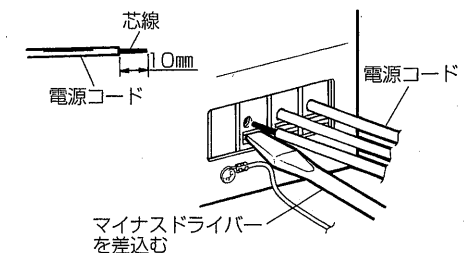
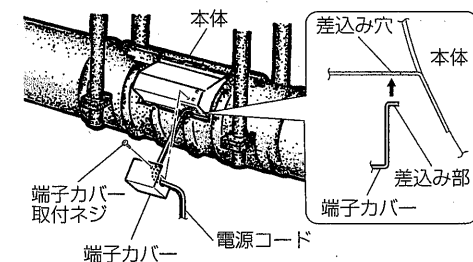
2 VVFケーブル（φ1.6、φ2）を皮ムキした芯線を速結端子の下側の表示に従って確実に奥まで差込む。



3 端子カバーの電源線取出口からVVFケーブルを出し端子カバーのツメをアース端子接続部にある溝に入れ、端子カバーを元通り取付ける。

お願い

- より線を結線する場合は、棒状圧着端子（市販品）をより線に取付けてから速結端子に確実に差込んでください。
- 電線被ふくは端子ボックスにあるストリップゲージに合わせて10mmむいてください。
- 電源コードは、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたるませてください。
- 電源コードを速結端子より外す場合は、マイナスドライバーで速結端子の外しボタン（赤色）を押しながら電源コードを引抜いてください。
- D種（第3種）接地工事の際は、単線直径1.6mmまたはより線1.25mm²を使用ください。（圧着工具は日本圧着端子製 YHT-2210をご使用ください。）



5. 試運転

取付工事が終わりましたら再度結線が間違っていないか確認してから試運転を行ってください。
試運転の方法は、換気・冷暖房システム本体付属の取付説明書を参照して行ってください。

1. 結線は正しいですか？

結線図を参照し正しいか確認してください。

2. コントロールスイッチを操作し正常な運転ができますか？

- (1) 電源スイッチの「入」・「切」の切換えを確認してください。
- (2) 風量切換スイッチの「強」・「弱」の切換えを確認してください。